

中学校英語教科用図書のリスニングタスクと 全国高等学校入学試験のリスニング問題の比較分析

平野 絹枝*・田中 美樹**

1. はじめに

現行の中学校学習指導要領において、「聞くこと」に関して、「英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。」という目標が挙げられている。平成20年度改訂された新中学校学習指導要領（平成24年度から全面実施）では、「ア聞くこと」に関して現行の指導要領では「(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取る」とされていたものが、「情報を正確に聞き取る」に変わっており、正確さが重視されているのは注目すべき点である。また、今回の改訂では、新たに「(オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。」が加わった。近年では大学入試センター試験にもリスニングが導入され、全国の公立高等学校学校入学試験においてもリスニングが課されており、ますますリスニング指導への重要性が高まっている。

目標に掲げられている「初歩的な英語を理解すること」とは、どの程度のリスニング力の育成を要求しているのだろうか。中学校の3年間で、どれほどのリスニング力をつけることが望ましいのかを明らかにすることは非常に困難であるが、中学校検定英語教科書でのリスニング活動、と中学生が3年間の学びの集大成として受験していると考えられる全国高等学校入学試験で出題されるリスニング問題を比較分析をし検討することは、中学校で身につけるリスニング力とはどの程度の内容のスキルをいうのかを明らかにする際の重要な情報となると考えられる。検定教科書の英語リスニング活動と、高等学校入試のリスニングテスト問題を比較し、その間にどのような関係があるのだろうかを考察することは、意義がある。

テスト問題の内容やテスト問題形式は、言語能力テスト理論を反映するものであり、どのような問題が高校入試で出題されるかはテスト受験者の学習や教師の指導に影響を与える。このようなテストの波及効果（washback）の影響は、多くの研究者が指摘しており、Brown（2005）は、washbackを「関係しているカリキュラムにテストが影響を及ぼす程度」（p.242）と定義しており、その重要性を指摘している。さらにBrown（2005）は、washbackの影響の種類は、考えられている以上に複雑であることが先行研究からわかる（p.243）、と述べている。高校入試の英語リスニング問題やそのテスト形式が中学校英語検定教科書に及ぼす影響、又は、検定教科書の英語リスニングタスクの内容や種類が高等学校入試のリスニング問題に与える影響について考察した研究はほとんどないと思われる。

本分析では、平成14年度の全国公立高等学校入学選抜試験のリスニングテスト問題を調査した杉本（2003）、その追調査を行った伊藤（2006）の分析方法を参考に、平成20年度の全国公立高等学校入学試験のリスニングテスト問題と、中学校文部科学省検定英語教科用図書にとりあげられているリスニングタスク、活動の特徴を比較分析し、現状を明らかにして今後のリスニング指導への示唆を得たい。

2. 調査

2.1 目的

本研究の目的は、中学校での今後のリスニング指導の示唆を得るために、中学校検定英語教科書（NEW HORIZON English Course）のリスニング問題と、その教科書を使用している県での高等学校入試問題のリスニングテストを比較分析することにより、中学校3年間で身につけるのに必要と思われるリスニング能力の特徴を考察することである。

* 上越教育大学 ** 上越教育大学大学院

この2つを比較して、中学校検定教科書で取りあげられている英語リスニング問題練習が高等学校校入試のリスニング問題にどの程度対応しているか、検定教科書の英語リスニング問題のなかで、対応していない点はどのような点かを明らかにする。

2.2 分析資料

- (1) 東京書籍発行の『NEW HORIZON English Course 1』, 『NEW HORIZON English Course 2』, 『NEW HORIZON English Course 3』の本文以外にある、リスニングに関するタスク、活動、問題（例 Listening Plus, Multi Plus, 本文以外のListenと書かれている活動等）。計111題。
- (2) 旺文社発行の『2009年受験用全国高校入試問題正解』より、NEW HORIZONの採択率が多い10県の2008年度実施の入試リスニング問題。計86題。

Creative Core株式会社 (<http://cc.columbia.co.jp/ep/shohin/saitaku.htm>) より、全国の中学校での東京書籍発行の『NEW HORIZON English Course』の採択状況を調べ、採択率が多い10県の入試問題を分析した。このことで、より効果的に検定教科書と高等学校入試のリスニング問題の関係について探れるのではないかと考えた。採用した県は採択率の多い順に岩手県、福島県、福井県、宮城県、鳥根県、香川県、鳥取県、滋賀県、茨城県、愛知県である。

2.3 調査項目と方法

東京書籍発行『NEW HORIZON English Course』と高等学校入試問題リスニング問題に関して以下の項目について分析、比較を行う。

(1) spoken textに関する分析

1. spoken textの「総単語数」「総文数」「1 textあたりの平均語数」「1 textあたりの平均文数」「1 文あたりの平均語数」を調べる。
2. textの種類、すなわち、(1) ダイアログ、(2) モノログ、(3) その他、別に「1 textあたりの平均語数」「1 textあたりの平均文数」「1 文あたりの平均語数」を調べる。Nunan (1991)を参考に、textの種類をダイアログ（2人の間での会話）、モノログ（発話者は1人）、その他（ダイアログ、モノログに分類することが困難なtext）の3つに分類した。
3. ダイアログ、モノログ、その他、別に、リスニング問題（タスク、活動）数を調べる。

(2) 問題形式に関する分析

杉本（2003）の問題分類タイプを参考に6グループ28タイプにリスニング問題形式を分類した。杉本（2003）は7グループ20タイプ、また、その追調査を行った伊藤（2006）は9グループ32タイプに分類したが、本研究では分類できないものが出てきたため、新しく追加、または削除して作成した表1の問題形式のタイプに基づいて問題を分類した。

3. 結果

3.1 spoken textに関する分析

spoken textの「総単語数」「総文数」「1 textあたりの平均語数」「1 textあたりの平均文数」「1 文あたりの平均語数」は表2の通りである。1 textあたりの平均語数、1 textあたりの平均文数、1 文あたりの平均語数は、教科書のリスニングタスク（活動）と入試のリスニング問題において同程度であった。

表1 リスニング問題形式のタイプの分類

グループⅠ	※英語の文、質問（主に単文）を聞いて、それに答える	
※	1	答えを書かれた英文から選ぶ
	1a	答えを選択肢の絵（図、表）から選ぶ
	1b	答えを絵（図、表）から読み取り日本語で書く
	1c	答えを絵（図、表）から読み取り英語で書く
	1d	答えを記号や○×で答える
	2	答えを英文で書く
グループⅡ	まとまりのある英文を聞いて、話される英語での質問に答える	
	3	話される英語での質問の答えを選択肢の絵（図、表）から選ぶ
	4	話される英語での質問の答えを書かれた英文の選択肢から選ぶ
	5	話される英語での質問の答えを書かれた日本語の選択肢から選ぶ
	6	話される英語での質問の答えを、話される英文の選択肢から選ぶ
	7	話される英語での質問に、英語で答える
	8	話される英語での質問に、日本語で答える
グループⅢ	まとまりのある英文を聞いて、日本語の質問に答える	
	9	日本語の質問に、日本語で答える
	10	日本語の質問に、英文の選択肢から選ぶ
	11	日本語の質問に、日本語の選択肢から選ぶ
	11a	日本語の質問に、選択肢の絵（図、表）から選ぶ
グループⅣ	まとまりのある英文を聞いて、様々に答える	
※	12	内容を表わす絵（図、表）を、選択肢から選ぶ
	13	内容を表わす文を、日本語の選択肢から選ぶ
	14	内容を表わす文を、英語の選択肢から選ぶ
	15	内容を表わす英文の空所に、英語を書く
	15a	内容を表わす日本語の空所に、日本語を書く
	15b	内容を表わす絵や記号、数字を書く
	16	内容を表わす文を、話される英文の選択肢から選ぶ
グループⅤ	まとまりのある英文を聞いて、その途中やそれに続く英文を答える	
	17	続きの英文を書かれた英文の選択肢から選ぶ
	18	英文中のチャイムの部分の英文を聞く
グループⅥ	※ その他	
※	19	内容に関する英文を書く
	20	ディクテーション（部分ディクテーションを含む）
	21	内容を表わす文を話される英文の選択肢から選ぶ

※は変更した項目、または新しく加えた項目

表2 spoken textの「総単語数」「総文数」「1 textあたりの平均語数」「1 textあたりの平均文数」「1 文あたりの平均語数」

	総語数	総文数	1 textあたりの 平均語数	1 textあたりの 平均文数	1 文あたりの平 均語数
教科書（ $k=111$ ）	4440	713	40.00	6.42	6.23
高校入試（ $k=86$ ）	3472	573	40.37	6.66	6.06

3.1.1 ダイアログ、モノログ、その他、別の「1 textあたりの平均語数」、「1 textあたりの平均文数」、「1 文あたりの平均語数」

結果は表3の通りである。モノログでは、検定教科書のリスニングタスク（活動）の方が入試のリスニング問題よりも「1 textあたりの平均語数」、「1 textあたりの平均文数」がやや多かった。

表3 ダイアログ、モノログ、その他別の「1 textあたりの平均語数」「1 textあたりの平均文数」「1 文あたりの平均語数」

		平均語数	平均文数	1 文の平均語数
ダイアログ	教科書 ($k=30$)	45.53	9.79	4.69
	高校入試 ($k=50$)	45.00	8.08	5.76
モノログ	教科書 ($k=41$)	67.72	8.67	8.15
	高校入試 ($k=24$)	45.54	5.83	7.36
その他	教科書 ($k=40$)	9.13	1.56	6.60
	高校入試 ($k=12$)	10.75	2.41	4.80

3.1.2 textの種類（ダイアログ、モノログ、その他）別のリスニング問題数と割合

textの種類（ダイアログ、モノログ、その他）別のリスニング問題数と割合は表4、図1の通りである。 2×3 の χ^2 検定の結果、教科書と入試のtextの種類別のリスニング問題の出現頻度のパターンに有意な違いがあることがわかった ($\chi^2(2)=21.7, p<.01$)。さらに、その他のtextを除いて、ダイアログ、モノログの2種類のtextの出現頻度を教科書と入試間で比較してみた。 2×2 の χ^2 検定を行った結果、教科書と高校入試のリスニングタスク、リスニング問題の出現頻度間に有意なパターンの違いがみられた ($\chi^2(1)=9.39, p<.01$)。次に、教科書において、 1×2 の χ^2 検定の結果、リスニングタスク（活動）の出現頻度の偏りは有意ではなく ($\chi^2(1)=1.70, ns$)、ダイアログとモノログの問題数は、同程度であった。しかし、高校入試においては、 1×2 の χ^2 検定の結果、リスニング問題の出現頻度の偏りは有意であり ($\chi^2(1)=9.14, p<.01$)、ダイアログがモノログの倍以上に多かった。

表4 textの種類（モノログ、ダイアログ、その他）別の問題数と割合（教科書と入試の比較）

	ダイアログ	モノログ	その他
教科書	30 (27.0%)	41 (37.0%)	40 (36.0%)
高校入試	50 (58.1%)	24 (27.9%)	12 (14.0%)

3.2 問題形式に関する分析

NEW HORIZONの問題形式のタイプ別問題数と割合は表5、表6、図2の通りである（学年別のリスニング問題形式については資料参照）。NEW HORIZONで1番多かった問題形式は、1d（答えを記号や○×で答える。14.4%）、13（内容を表わす文を、日本語の選択肢から選ぶ。14.4%）であった。そのほか、日本語で答えたり（1b, 13.5%）、絵や記号、数字を書いたり（15b, 13.5%）する問題形式が多かった。

一方、入試のリスニング問題形式においては、英語での質問の答えを、書かれた英文の選択肢から選ぶ問題形式(4)が、多かった(28.0%)。また、英語での質問の答えを選択肢の絵（図、表）から選ぶ問題形式(3)が次に多かった(17.4%)。質問も英語で読み上げられる問題形式は、教科書では見られなかったのに対して、入試では取り上げられていた。

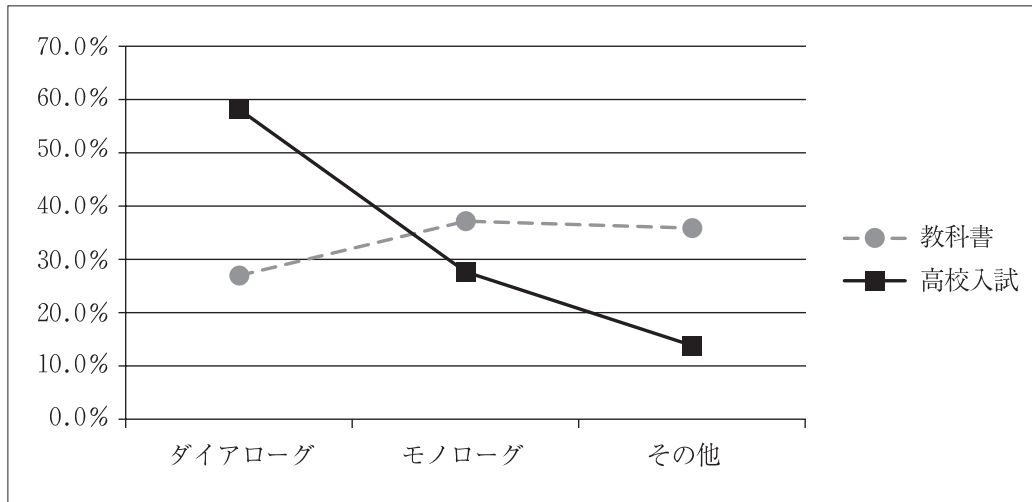


図1 textの種類（ダイアログ，モノログ，その他）別の問題数と割合（教科書と入試の比較）

表5 NEW HORIZONのリスニング問題形式のタイプ別問題数と割合

タイプ	問題数	%	タイプ	問題数	%
1	0	0%	11	8	7%
1a	1	0.9%	11a	1	0.9%
1b	15	13.5%	12	12	10.8%
1c	5	5%	13	16	14.4%
1d	16	14.40%	14	1	0.9%
2	0	0%	15	6	5.4%
3	0	0%	15a	1	0.9%
4	0	0%	15b	15	13.5%
5	0	0%	16	0	0%
6	0	0%	17	0	0%
7	0	0%	18	0	0%
8	0	0%	19	0	0%
9	10	9%	20	3	3%
10	1	0.9%	21	0	0%

4. 考察

4.1 spoken textに関する分析について

教科書と入試のリスニング問題のspoken textの平均的長さ，平均的文数，1文あたりの平均語数がほぼ同じ程度であったことから（表2参照），中学生が3年間で身につけるであろうと思われるリスニング能力には，40語程度のまとまった英語を聞き取ることができるようになることが必要であるかもしれない。

教科書ではダイアログ，モノログを同程度に取り扱っているのに対して，入試においてはダイアログのリスニング問題がモノログの倍以上に多かった（表4，図1参照）。NEW HORIZONの教科書ではダイアログとモノログの出現頻度間に有意な差はみられなかったにもかかわらず，入試ではダイアログがモノログより使用される頻度がなぜ多いかは，興味深い点である。他の検定教科書や今回分析していない県の入試問題とも比較し，検討する必要があると思われる。

表6 高校入試のリスニング問題形式のタイプ別問題数と割合

タイプ	問題数	%	タイプ	問題数	%
1	6	7%	11	2	2.3%
1a	1	1.2%	11a	1	1.2%
1b	0	0%	12	3	3.4%
1c	0	0%	13	0	0%
1d	0	0%	14	0	0%
2	0	0%	15	1	1.2%
3	15	17.4%	15a	1	1.2%
4	24	28.0%	15b	0	0%
5	5	6%	16	0	0%
6	4	5%	17	6	7%
7	2	2.3%	18	0	0%
8	0	0%	19	0	0%
9	4	5%	20	3	3.4%
10	0	0%	21	5	6%

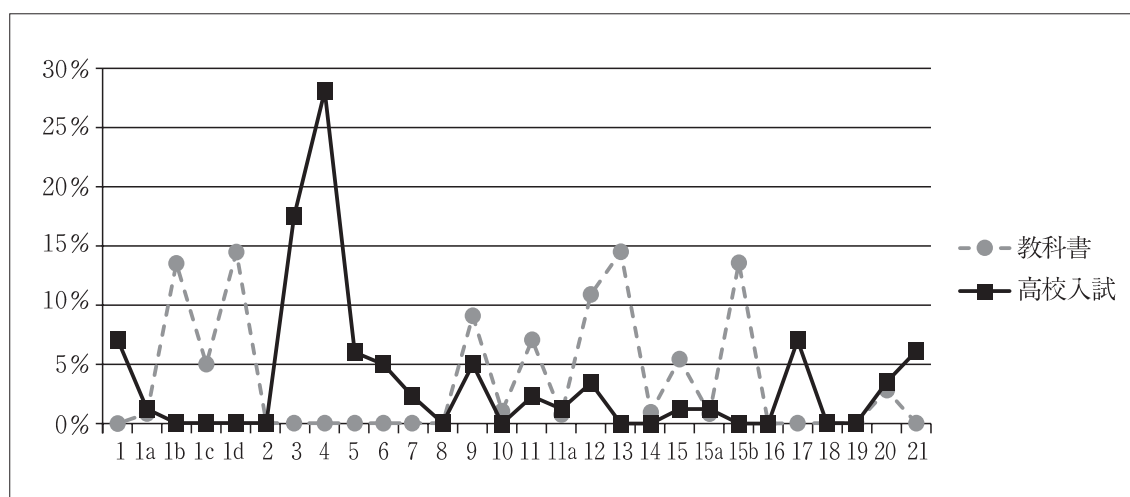


図2 NEW HORIZONと高校入試のリスニング問題形式のタイプ別問題数の比較

4.2 問題形式に関する分析について

NEW HORIZONでは、答えを記号や○×で答えたり、内容を表す文を、日本語の選択肢から選んだり、答えを日本語で書いたり、内容を表す絵や記号、数字を書いたりする問題形式が多かった。一方、入試のリスニング問題形式においては、選択肢が英語である問題形式が非常に多かった。また、質問も英語で読み上げられる問題形式（グループⅡ）が、高校入試ではかなり取り上げられていたのは、興味深い。

図2を見ると明らかであるが、教科書と入試の問題形式のタイプにおいて、重なりあう部分が少ないことから、教科書のリスニング問題を行うだけでは高校入試のリスニングの問題形式に対応するのは難しいと言えよう。本研究で入試問題を分析した10県は、各県内で80%以上の地域がNEW HORIZONを採択している。それにも関わらず、教科書にあまり出現しないような問題形式が高校入試問題に取り上げられているということから、教科書に載っている以外のリスニングタスク、活動、問題も授業で配慮する必要があるだろう。また、高等学校入試問題作成者は、教科書で扱われているリスニング問題形式の特徴を認識する必要があるのではないだろうか。

5. おわりに

高校入試と検定教科書のリスニング問題や活動において、扱っている問題形式の種類に差があるということは、今後のリスニング指導に有益な示唆を与ええると言える。リスニングを指導する際、教師は教科書に取り上げられている以外のリスニング問題形式にも目を向け、配慮する必要があるだろう。

本稿の分析では、検定教科書はNEW HORIZONのみを対象とし、入試問題はNEW HORIZONの採択地域が多い県のみを対象としたため、今後は他の教科書や入試問題も扱って分析し、検討する必要がある。

引用文献

- Brown, J. D. (2005). *Testing in language programs*. New York: McGraw-Hill.
- 伊藤久 (2006) 「英語教材分析－全国公立高等学校入試リスニング問題の分析－」 未発表資料 (2006年1月25日)
- 笠島準一他 (2006) *NEW HORIZON English Course 1* 東京：東京書籍
- 笠島準一他 (2006) *NEW HORIZON English Course 2* 東京：東京書籍
- 笠島準一他 (2006) *NEW HORIZON English Course 3* 東京：東京書籍
- 文部科学省 (1999) 『中学校学習指導要領解説－外国語編－』 東京：東京書籍
- 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領』
- 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 東京：開隆堂
- Nunan, D. (1991). *Language teaching methodology*. Prentice Hall.
- 旺文社 (2005) 『2009年受験用 全国高校入試問題正解 英語』 東京：旺文社
- 杉本博昭 (2003) 「全国公立高等学校入試リスニング問題の分析」 *STEP BULLETIN*, 15, 171-179.

資料 NEW HORIZON の学年別リスニング問題の分析と入試のリスニング問題の分析結果

		NH 1 年	NH 2 年	NH 3 年	NH 合計	入試
グループⅠ	英語の文、質問（主に単文）を聞いて、それに答える					
1	答えを書かれた英文から選ぶ				0	6
1a	答えを選択肢の絵（図、表）から選ぶ	1			1	1
1b	答えを絵（図、表）から読み取り、日本語で書く	6	6	3	15	
1c	答えを絵（図、表）から読み取り、英語で書く	5			5	
1d	答えを記号や○×で答える	9		7	16	
2	答えを英文で書く					3
グループⅡ	まとまりのある英文を聞いて、話される英語での質問に答える					
3	話される英語での質問の答えを、選択肢の絵（図、表）から選ぶ					5
4	話される英語での質問の答えを、書かれた英文の選択肢から選ぶ					24
5	話される英語での質問の答えを、書かれた日本語の選択肢から選ぶ					5
6	話される英語での質問の答えを、話される英文の選択肢から選ぶ					4
7	話される英語での質問に、英語で答える					2
8	話される英語での質問に、日本語で答える					
グループⅢ	まとまりのある英文を聞いて、日本語の質問に答える					
9	日本語の質問に、日本語で答える	1	3	6	10	4
10	日本語の質問に、英文の選択肢から選ぶ		1		1	
11	日本語の質問に、日本語の選択肢から選ぶ	1	4	3	8	2
11a	日本語の質問に、選択肢の絵（図、表）から選ぶ	1			1	1
グループⅣ	まとまりのある英文を聞いて、様々に答える					
12	内容を表わす絵（図、表）を、選択肢から選ぶ	7	1	4	12	3
13	内容を表わす文を、日本語の選択肢から選ぶ	4	9	3	16	
14	内容を表わす文を、英語の選択肢から選ぶ			1	1	
15	内容を表わす英文の空所に、英語を書く	1	2	3	6	1
15a	内容を表わす日本語の空所に、日本語を書く	1			1	1
15b	内容を表わす絵や記号、数字を書く	9	6		15	
16	内容を表わす文を、話される英文の選択肢から選ぶ					
グループⅤ	まとまりのある英文を聞いて、その途中やそれに続く英文を答える					
17	続きの英文を書かれた英文の選択肢から選ぶ					6
18	英文中のチャイムの部分の英文を聞く					
グループⅥ	その他					
19	内容に関する英文を書く					
20	ディクテーション（部分ディクテーションを含む）	3			3	3
21	内容を表わす文を話される英文の選択肢から選ぶ					5